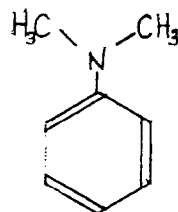


# N-N-ジメチルアニリンの分解度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年2月25日～昭和50年5月8日
2. 試料名 N-N-ジメチルアニリン (試料No. K-109)
- 分子式  $C_8H_{11}N$

構造式



## 3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号  
 発 第 6 / 5 号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による  
 49基局第392号

### 3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

### 3.2 酸素消費量測定

3.1の記録による

### 3.3 生分解試験後の直接定量法

#### (a) 使用分析機器

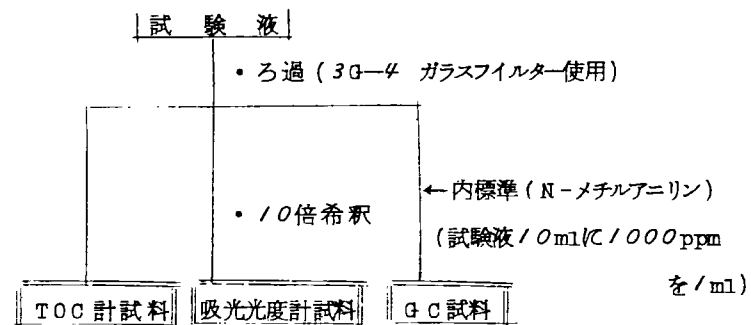
全有機炭素分析計

紫外可視自記分光光度計

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

(以下余白次頁に続く)

## (b) 分析試料の前処理



## (c) 分析条件

全有機炭素分析計 (TOC計)

流 速 TC回路 200ml/min

温 度 TC炉 900℃

紫外可視自記分光光度計 (吸光光度計)

波 長 210nm～370nm

スリット幅 4nm

使用セル 石英セル 10mm×10mm

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス  $N_2$

充てん剤 20% PEG-20M / クロモソルブ W

ガラスカラム 2mmφ×1m

カラム温度 145℃

(以下余白次頁に続く)

#### 4 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	1.9	1	—
T O C計による結果	12.3	2	1
吸光光度計による結果	※(—)	3	2
G Cによる結果	0	4	3

※ 負の値を得たので(—)とした。

#### 5 その他 (図-5参照)

K-109は揮散性があり残留率が約50%前後であるがこれは培養ビンのふたに接続しているゴム管を通して揮散したものであると思われる。なお、密栓の場合はほとんど揮散しない事がわかった。

以 上